

2023 年度「政治学インターンシップ テーマ探究：東北被災地研修」実施報告書

9月14日～16日の日程で、皆様のご協力のもと、政治学インターンシップ（テーマ探究・東北被災地研修）を実施いたしました。

この科目では、東日本大震災の被災地（陸前高田市・南三陸町・女川町・名取市など）を訪れ、実際に被災地の現状を見て知り、行政や地域の活動に関わる方々や被災された方々との意見交換を行います。これらの活動を通して、震災当日や震災前の取り組み、復興計画と現状などをさまざまな角度から理解し、ときには比較検討をし、防災と復興について主体的に学ぶことを目的としています。

現地研修には政治学科のみならず他学部他学科（法律学科など）の大東文化大生も参加しました。参加学生は事前学習としてグループごとに担当地域の被災状況を調べて、そのうえで成果発表会を行い、被災地の震災当時の状況と現状についてある程度事前に知識を得ました。そして各々の興味関心をもって研修にのぞみました。

現地ではさまざまな地域を実際に訪れ、震災遺構等を見学しました。視察先でお話をうかがった後には学生たちがそれぞれの視点から質問をし、お話しくださった方と活発な意見交換をおこなうことができました。特に、今年度はお話ししてくださった方が今まででは聞くことのできなかつたことを話してくださったと思います。バス移動中にも宮城教育大学の武田真一先生から、公衆衛生学における被災に関する研究、被災以降の街並みの変化、伝承活動の意義など被災地を理解するうえで重要なお話を伺いました。



砂浜を残すかたちで防潮堤が整備された大谷（おおや）海岸



南三陸町の研修施設における意見交換



旧大川小学校においてお話を伺う

研修の場では多くの方々から貴重なお話をうかがうことができ、参加学生のみならず教員にとっても貴重な経験となりました。また、被災体験のみならず職場での意思決定のあり方、公務員の使命および目指すべき公務員像、震災遺構をめぐる議論、自治体における

復興政策とその功罪などさまざまな観点からお話をうかがえたことは、学生たちにとって防災や復興だけでなく、就職後の社会生活、さらにはいのちの大切さを考えるうえでも多くの示唆を受けるものであったかと思います。今回の研修でお話くださった皆様および武田真一先生にこの場を借りて改めてお礼申し上げます。



旧野蒜駅プラットホーム



荒浜海岸の視察